

2014年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、極うずは分裂し、カナダ北部とバイカル湖付近に位置した。北米、ヨーロッパ西海上ではトラフ、ヨーロッパ東部からロシア西部ではリッジとなった。また、日本の東海上では月の前半にブロッキング高気圧が発達し、顕著な正偏差となった。亜熱帯ジェット気流は日本付近で平年の位置と比べて南偏し、寒帯前線ジェット気流は本州の北東海上で北に蛇行した。アリューシャン低気圧は平年より弱かった一方、シベリア高気圧は平年より強く、本州付近への張り出しが明瞭だった。

熱帯の対流活動は、太平洋（中部赤道域を除く）、南米、アフリカからインド洋西部にかけては平年より活発、インド洋東部からインドネシア付近にかけて、中部太平洋赤道域では不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インド洋から太平洋を東進した。対流圏下層では、西部太平洋赤道域で月後半を中心に西風偏差が明瞭だった。対流圏上層では、本州の南海上から北太平洋中部にかけては低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は0.0だった。

※各天気図の作成に用いるデータを、気象庁及び電力中央

研究所による長期再解析（JRA-25）データから、気象庁55年長期再解析（JRA-55）データに変更しました。JRA-55データに関する解説については、本号の「気象庁55年長期再解析（JRA-55）」をご覧ください。

世界の天候

2014年2月の世界の月平均気温偏差は0.00℃（速報値）であった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76℃/100年（速報値）である。

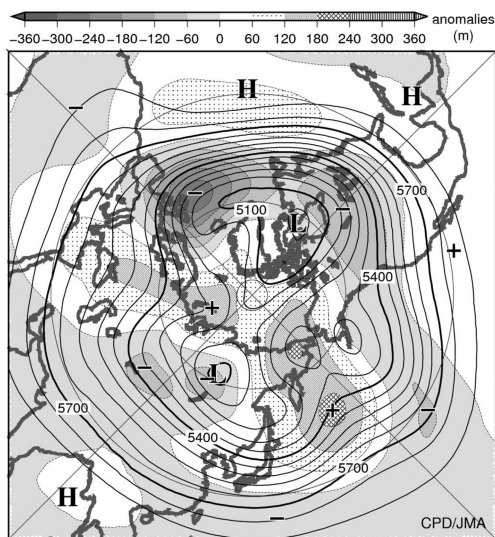
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- インドネシア西部及びその周辺では異常少雨となった。
- カザフスタン南部～イランでは異常低温となった。
- ヨーロッパ南部～西部では異常多雨となった。
- メキシコ及びその周辺では異常高温となった。

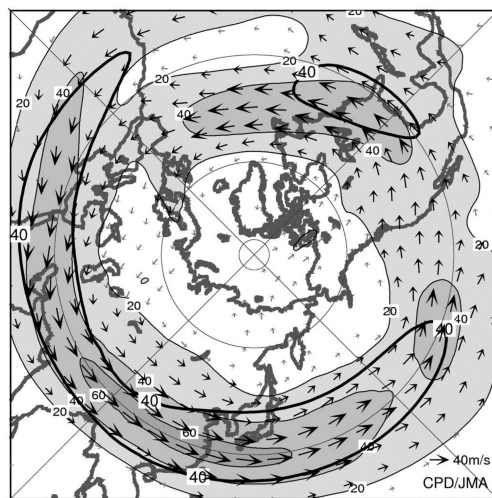
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

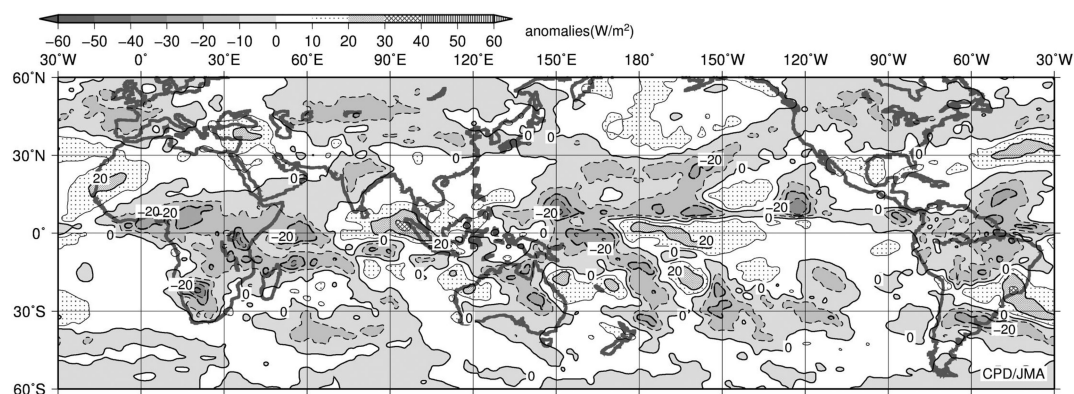
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年2月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

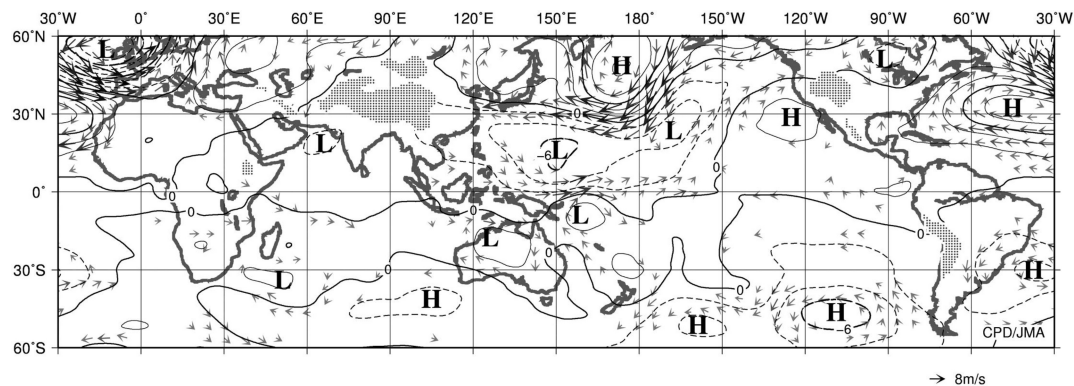


2014年2月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。

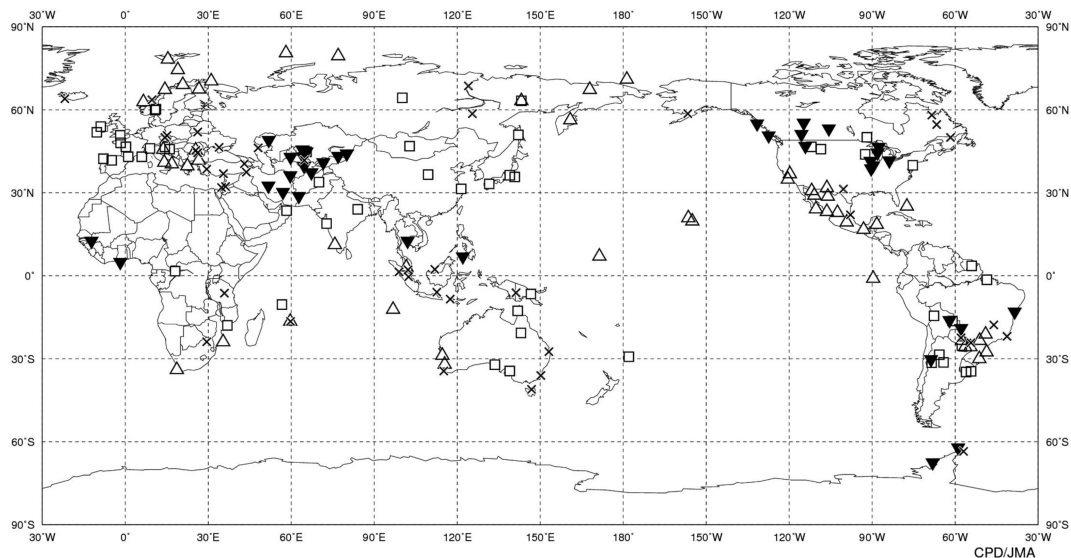


2014年2月の月平均外向き長波放射量平年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年2月の月平均850 hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981～2010年の平均値。



2014年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。